

緊急非常事態宣言!!高齢者の交通事故が多発

公共交通機関が十分に発達していない地方において、自動車は日常生活に不可欠なものです。しかし今、高齢者が関わる交通事故が全国で多発しており、西脇市でも対策が必要となっています。先月には、西脇警察署と西脇多可交通安全協会が「高齢者交通事故多発緊急非常事態」を宣言しました。一人ひとりが高齢者を取り巻く交通環境を理解し、思いやりを持った運転を心がけましょう。



運転指導を受ける高齢運転者

今年5月下旬から1ヵ月半の間に、西脇警察署管内（西脇市および多可町）で4件の死亡事故が発生しました。いずれも65歳以上の高齢者が自動車等を運転中のことでした。また、7月時点で比較すると、昨年の人身事故発生件数は169件でしたが、今年はずでに200件を超えており、異例のペースで増加しています（平成26年7月6日速報値）。

この事態を受けて、西脇警察署と西脇多可交通安全協会は、7月7日に「高齢者交通事故多発緊急非常事態宣言」を発表しました。

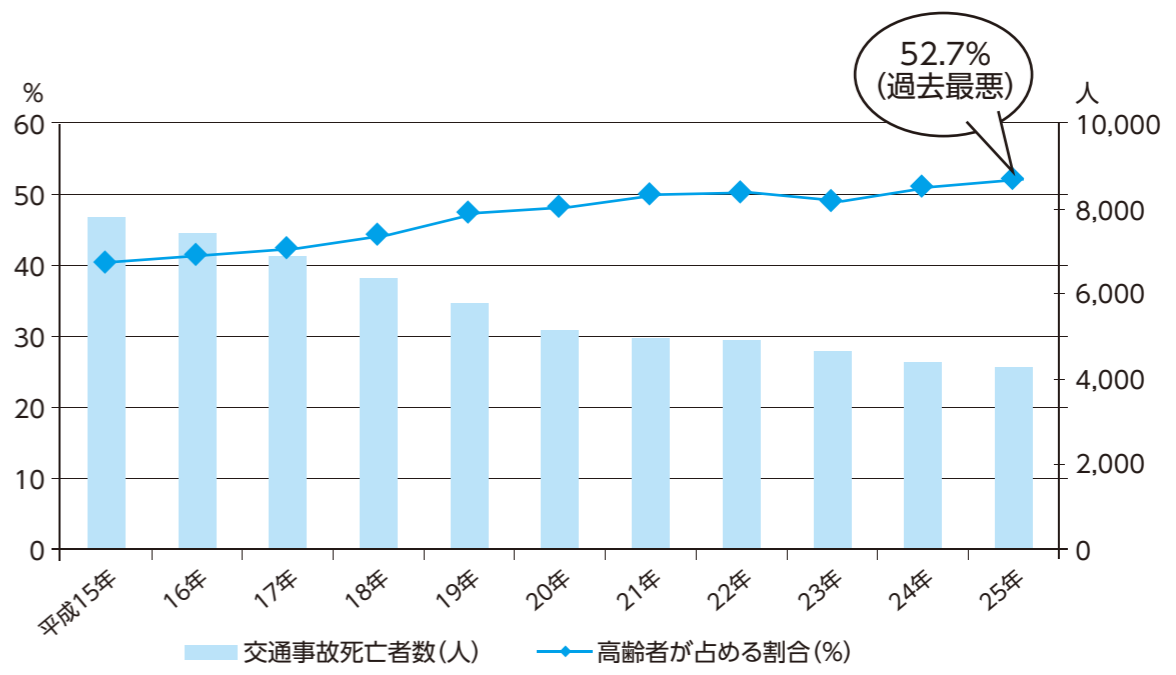
数が全体的に減少する中で、平成25年の高齢者の死者数は過半数を占め、52・7%と過去最高を記録しました。人口10万人当たりで比較すると、高齢者は7・5人に上っており、他の年齢層の3・5倍になっています。

社会全体で交通安全対策を

高齢者の死者数が増えている背景には、少子高齢化の急速な進行があります。

戦後生まれのいわゆる「団塊の世代」が次々に高齢期を迎えており、わが国の高齢者人口は、ピークとなる平成32年に3,400万人を超え、全人口の29%を占めると予測されています。

このことから、高齢者の交通安全対策は、早急に社会全体で取り組むべき課題であると言えます。



(警察庁「平成25年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締状況について」から作成)

体調が悪いときは、無理せず運転を控えて

高齢者の交通事故問題について、西脇警察署の宮崎正一交通課長に伺いました。

運転は、「認知・判断・操作」で成り立っています。例えば、運転中に前方の信号が赤に変わったとき、①信号が赤に変わったと認識することが「認知」、②赤信号だから停止しようと考えることが「判断」、③停止するためにブレーキを踏むのが「操作」です。

加齢に伴う身体機能の衰えは、安全運転に必要な認知・判断・操作の能力に大きく影響します。特に、交差点付近は、歩行者や進入してくる自動車などに同時に注意を払わなければならないので、高齢者にとっては対応が難しい場所です。対向車や歩行者を見逃したり、自動車の操作を誤ったりして、交差点付近で事故が多発するのはこのためです。

高齢者講習が義務付け

平成13年の道路交通法改正で、70歳以上の方には高齢者講習が義務付けられました。高齢者講習では、講義や身体検査、運転実習等を3時間程度受けていただきます。

高齢者講習の機会を利用して、加齢に伴う身体機能の低下が自分の運転にどう影響しているのかを自覚していただき、個々の状態に応じた安全運転の方法を身に付けましょう。

運転免許の返納も検討を

事故を起こしてしまうと、家族をはじめ多くの人々を辛い目に遭わせてしまいます。家族から「運転が心配だ」と言われたら、自分の行動を振り返りながら話し合い、運転免許を自主的に返納することも検討してください。お問い合わせは西脇警察署まで（☎22・0110）。



西脇警察署 宮崎正一交通課長

高齢運転者に思いやりを

高齢運転者が自ら安全運転を心掛ける必要がある一方で、周囲の運転者にもできることがあります。

70歳以上の高齢運転者は、自動車の前面と後面に「高齢運転者標識」を表示して運転するよう努めなければならないとされています。この標識を付けた自動車に幅寄せや割り込みをすると、処罰の対象になります（やむを得ない場合を除く）。

また、高齢運転者の中には「相手が止まってくれる」といった勝手な思い込みなどによって、周囲の運転者にとって予想外の行動をする方もあります。

高齢運転者標識が貼られた自動車を見たら、十分に車間距離をとり、思いやりを持った運転を心がけましょう。



高齢運転者標識

西脇多可シルバードライバースクールが開催

6月30日、西脇自動車教習所で高齢運転者を対象にシルバードライバースクールが開催されました。

西脇自動車教習所の協力のもと、参加者は自動車の運転実技を行った後、同乗していた指導員からアドバイスを受けました。鹿野町老人クラブの岸本滋会長は「左右の安全確認や急ブレーキ、一時停止など基本的動作が思っていたよりできなかった。学んだことを家族と話し合って、日々の安全運転に生かしたい」と話しました。

